



TITLE:

西藏における蒙古人

AUTHOR(S):

策冷呢嘛

---

CITATION:

策冷呢嘛. 西藏における蒙古人. 東洋史研究 1948, 10(2): 40-40

ISSUE DATE:

1948-05-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/138870>

RIGHT:

⑤ 周書卷五〇突厥傳に

死者。停屍於帳。子孫及諸親屬男女各殺半馬。陳於帳

前。祭之。……擇日。取亡者所乘馬及經服用之物。并屍

俱焚之。收其餘灰。待時而葬。

と見えて、突厥の葬儀に際し、馬匹を犠牲とし、生前使用の馬匹は主に殉ぜしめたことが傳へられる。石敬瑭の葬に際してはこの習俗が形を變へつつもなほ持續されしを見る

西藏における蒙古人

西藏人と蒙古人とは同じくラマ教團に住する民として御互に頗る仲よく對等に交つて居る如く一寸見には見えるであらう。所が事實は仲々さうではない。何と云つてもラマ教は西藏が其の大本家である所から自然西藏人の方が優越感を抱き蒙古人はそれに對して卑下する傾向にある。勿論自然の條件も若干之に影響を及ぼして居る事は否めない。氣候嚴烈にして困難な日常生活をして居る西藏人に較べれば蒙古人は豊沃なステップ地帯に住み安樂な生活を享受して居る。従つて西藏人に比すれば遙に人間的に溫和でありオトリとして居、惡く云へばボンヤリして居るのであらう。西藏人から見れば蒙古人と云ふものはよくボンツクの代表として扱はれて居る。友人野元君が西藏人から採集した西藏小唄の一つを左に紹介しよう。

或る蒙古の大ラマが小ラマを連れてタシルンポに參詣にやつて來た。名にし負ふ班禪の聖都タシルンポに來て小ラマはボーツとしてしまつた。或る時大ラマは小ラマを呼び

のである。

⑤ 五代史記卷十漢本紀に「高祖睿文聖武昭肅皇帝。姓劉氏。

初名知遠。其先沙陀部人也。其後世居于太原。」とあり、資

治通鑑卷二七〇貞明五年十月條には「(石)敬瑭・(劉)知遠。其先皆沙陀人。」とある。

⑤ この問題に就いては小野川秀美氏「河曲六州胡の沿革」特に二三二頁を參照のこと。

「綻びを縫ふ爲白糸 skud dkar-po を買つて參れ」と云つた。小ラマは原來西藏語が大して出來ない所にもつて來て街にウツトリとしてしまつて白糸を何と云ふのか忘れてしまつた。とある店に白糸が並んで居るのを見、彼は慌てゝその店に居る若い婦人に云つた。「大ラマの吩咐です。貴方の khud dkar-po は幾何ですか。」と。之を聞いた周圍の人々はドツと笑ひ、婦人は顔に紅葉を散らしたと云ふ。

此はこれで小唄としては充分出來上つて居る。しかしエキセントリックな頭は之に註釋を加へる。若し大ラマが中央西藏語らしく skud を ~~skud~~ 又は khud とでも發音したらこんな間違ひは起らなかつたかも知れない。恐らく彼は蒙古人らしく khud 又は kh と云ふ發音を小ラマに聞かせたのであらう。だから小ラマは khud と間違つたのである。所で私が此の小唄に興味を持つたのは此の蒙古人の西藏語發音のクセからの説明の出來る事であつて、何も小ラマが年に似合はず「白きデン部」の値段を尋ねて西藏婦人を赤面させたと云ふ事にあるのではない。(策冷呢嘛)